

第27回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2014年6月6日(金) 18:15より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)303号室

演題

運動部活動の戦後と現在：
なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか

中澤 篤史先生
(一橋大学大学院社会学研究科 専任講師)

運動部活動とは、いったい何なのか。それは、どのような歴史的展開の中で成立してきたのか。そして、現在いかなる状況のなかにあるのか。なぜ、スポーツは学校教育に結び付けられるのか。海外でも、日本と同じように、運動部活動は活発に行われているのか。

私は、こうした問いに10年余り取り組んできており、その成果をまとめて、『運動部活動の戦後と現在：なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか』(青弓社、2014年3月)として上梓した。

本報告では、同書の内容を元にして、運動部活動についての研究発表を行う。同書は、体育学・教育学をベースに社会学・歴史学の方法論も用いながら、運動部活動を見つめ直したモノグラフである。

実は、運動部活動は海外にはない日本独特の文化である。同書では、その内実を解明するために、戦後から現在までの運動部活動の歴史をたどり、フィールドワークから運動部活動を支える教師や保護者の声も聞き取り、そして自由に楽しむスポーツと強制をとまなう学校教育の緊張関係を〈子どもの自主性〉という視点から分析して、日本の運動部活動の特異性を浮き彫りにしようとしたものである。



早稲田大学 スポーツ科学学院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人：正木宏明・紙上敬太
早稲田大学 スポーツ科学学院
E-mail: masaki@waseda.jp